

# 令和6年 第11回総務経済常任委員会会議録

令和6年 9月11日 議員控室

## ○事 件

所管課報告事項

(1) 対策土受入地黒岩B地区、セレン濃度環境基準超過について（政策推進課）

協議事項

(1) 常任委員会の視察調査について

## ○出席委員（8名）

委員長	安 藤 辰 行 君	副委員長	牧 野 仁 君
	横 田 喜世志 君		大久保 建 一 君
	関 口 正 博 君		宮 本 雅 晴 君
	倉 地 清 子 君		三 澤 公 雄 君

## ○欠席委員（0名）

## ○出席委員外議員（4名）

議長	千 葉 隆 君		赤 井 睦 美 君
	佐 藤 智 子 君		斎 藤 實 君

## ○出席説明員（0名）

政策推進課長	川 口 拓 也 君	新幹線・公共交通参事	戸 田 敦 君
新幹線・公共交通係長	岡 島 孝 明 君		

## ○出席事務局職員

事務局長	野 口 義 人 君	事務局次長	成 田 真 介 君
------	-----------	-------	-----------

[開会 午前10時00分]

◎ 開会・委員長挨拶

○委員長（安藤辰行君） これより総務常任委員会を開催いたします。挨拶は割愛させていただきます。

◎ 所管課報告事項

【政策推進課職員入室】

○委員長（安藤辰行君） さっそく所管課の報告事項に入りたいと思います。

一番、対策土受入地黒岩B地区、セレン濃度環境基準超過について、政策推進課より報告をよろしくお願いいたします。

○新幹線・公共交通参事（戸田 淳君） 委員長、新幹線・公共交通参事。

○委員長（安藤辰行君） 新幹線・公共交通参事。

○新幹線・公共交通参事（戸田 淳君） 黒岩B地区の関係については、本年4月のモニタリングでセレンの濃度が環境基準を超過したということで、5月の常任委員会に報告をし、その後は数値が下がっておりまして、モニタリングの状況を注視してきたところですが、今回、再度超過があったということから、その経過と対応等につきまして、係長よりご報告いたします。

○新幹線・公共交通係長（岡島孝明君） 委員長、新幹線・公共交通係長。

○委員長（安藤辰行君） 新幹線・公共交通係長。

○新幹線・公共交通係長（岡島孝明君） まず表紙の（1）から今までの経過を簡単にご説明いたします。

先ほど参事から説明ありましたとおり、5月13日の常任委員会にて、4月2日に採水した分の黒岩地区B地区の濁水処理水の水質が環境基準であるセレンの濃度で0.01 mg/L に対して、0.012と超過したのがはじめての1回超えたものでございます。それ以降、八雲町からは環境基準を下回るよう対策措置を講ずるよう、鉄道・運輸機構に要請してまいりまして、4月25日以降、通常月1回の水質検査を週1回に頻度を増やして注視してきたところでございます。

2枚目のA3の資料のグラフのとおり、2024年5月あたりから細かく頻度を増やしているのがわかるんですけども、5月以降環境基準をずっと下回っていました。これで見ているのがオレンジ色の濁水処理水、これは山崎川へ直接排水する水質になるので、これが超えてなかったらとりあえずよかったかなというところでしたが、7月31日採水分、これが8月21日に機構から報告があったんですけども、セレン濃度が0.016ということで2回目の基準超過ということがございました。

その後一週間後の8月6日の採水分に関しても、8月28日に報告があったんですが、0.012と下がってはいるものの超過したというところでございます。

直近の水質検査内容については、8月8日採水分が9月9日に報告があったんですけども、これに関しては0.005というところで環境基準を下回っているところでございます。

原因についてなんですけれども、こちら盛土の下に濁りを取る調整池みたいな沈砂池と  
いってるんですけれども、沈砂池内にこの4月に超過したと、1回目なつたときに、対策を  
講ずるというお話をしていたんですけれども、その対策の一環である沈砂池内に吸着マッ  
トを設置するという作業をしていたんですけれども、その際に設置する際に沈砂池内に体  
積土砂がたまっていたというところで、この除去の作業を行っていたところ、7月31日の  
採水2日前の大雨によってですね、この沈砂池内の土が舞い上げられて、要は攪拌されて沈  
砂池内の水のセレン濃度が上昇したというもので、セレン濃度が高いものが濁水処理にか  
けられて、それが処理しきれずに0.016という環境基準を超過したものが出てしまったと  
ころが原因ということで推察しております。

これらを受けて(3)の鉄道・運輸機構の対応をいたしましては、5月13日の委員会報  
告をしていたんですけれども、対策講として二つ行っていて、一つは重金属を吸着する  
ようなマット、じゃかごといってるんですが、その設置をしておりまして、9月9日時点で  
4箇所設置予定のうち、3箇所は設置済みというところを報告受けております。

また、対策土に薄いが触れないように、法面の養生シートの施工を行うという報告をして  
おりましたが、この対策土、黒岩Bの受入地、沢が二つある、シートを施工する沢を二つ機  
構のほうで計画して、一つの沢についてはシートの施工は進捗状況100%という状  
況です。

それで、もう一つの沢については着手した段階ということで進捗状況は0%というこ  
とで記載させていただいております。

最後、八雲町の対応といたしましては、町長より次の要請を実施しています。一つが黒岩  
B地区への対策土搬入の即刻停止をすること。二つ目が環境基準を下回る措置を早急に実  
施すること。三つ目、上記の措置内容及び実施状況について早急に関係者へ報告すること。

最後、黒岩B地区への対策土搬入を再開する際は八雲町と協議することを8月27日に鉄  
道・運輸機構の副局長に要請書を直接手稿して、八雲町としても強く対応させていただいた  
ところでございます。

以上、報告について説明を終わります。

○委員長(安藤辰行君) 今、ご報告いただきましたけれども、質問ご意見はありませんか。

○委員(三澤公雄君) 委員長、三澤。

○委員長(安藤辰行君) 三澤さん。

○委員(三澤公雄君) この採水ポイントってどこにあるんだっけ。

○新幹線・公共交通係長(岡島孝明君) 委員長、新幹線・公共交通係長。

○委員長(安藤辰行君) 新幹線・公共交通係長。

○新幹線・公共交通係長(岡島孝明君) 採水ポイントなんですけれども、これでいくと濁  
水処理設備と放流先があると思うんですけれども、放流先での採水を実施しています。

○委員(三澤公雄君) 委員長、三澤。

○委員長(安藤辰行君) 三澤さん。

○委員(三澤公雄君) 原因って書いているものとさ、雨が降ったら沈砂池内のものが舞い  
上がるんだ。それが原因だっていうんだよね。じゃあ、雨が降るたび沈砂池のものが舞い上

がって、検査していない日だったらさ、それが放流先に流れているっていう説明にもなっちゃうんじゃない。これが原因だっていうなら。

○新幹線・公共交通係長（岡島孝明君） 委員長、新幹線・公共交通係長。

○委員長（安藤辰行君） 新幹線・公共交通係長。

○新幹線・公共交通係長（岡島孝明君） 基本的には沈砂池には通常沢から来る水があり、基本的にはたまっている状況なんですけれども、たまたまというか、今回水を抜いて、沈砂池の溜まっている土を取り除いたあとに対策講の一環である、じゃかごを設置するという作業の途中でした。

それで、溜まっている水を抜いて土だけがある沈砂池内に大雨が降ると、もちろん攪拌されて濁った水になるんですけれども、これが直接放流先へ行くのではなく、基本的には濁水処理設備を介して排水されるものなので、基本的に沈砂池内のものは直接放流先へは行かないようになってるんですけれども、今回、沈砂池内のセレン濃度が濃くなったがゆえに、濁水処理設備を介しても取り切れなかったというのが原因と推察しております。

○委員（三澤公雄君） なんで濃くなるの。沈砂池としてのスペースがあるんでしょ。よけてる最中だから沈砂池内のスペースはもっと広いわけだ。とある専門家が見ると沈砂池がそもそも小さいといってる人がいるんだけど、ものをよけてるんだからスペースはあるんでしょ、そしたらそこに沈砂するはずなんだよ。

だけど、そこでなんかの濃度が上がったって説明になってるんだからさ、沈砂するんだからさ、機能してないってことになってるんじゃないかな。

○新幹線・公共交通係長（岡島孝明君） 委員長、新幹線・公共交通係長。

○委員長（安藤辰行君） 新幹線・公共交通係長。

○新幹線・公共交通係長（岡島孝明君） 機能はしてるんですけれども、ごめんなさい。この沈砂池内で作業するために。

○委員（三澤公雄君） それ以降のものの機械をストップしていたってことかい。さっき言ってた濁水処理の。

○新幹線・公共交通係長（岡島孝明君） 水を抜いて対策講をするんですけれども、その前に沈砂池ですから、今まで盛土から流れてくる水があるじゃないですか。沈砂池に流入する。そこに含まれている土、濁りの原因になる色々あるじゃないですか。それを沈砂する役目のものが沈砂池なんですけれども。

なので、要は対策土に触れてきた水が沈砂池に入ってセレンとかいろいろ含まれているものが下に下がって、上水を濁水処理をかけるというものなんですけれども、基本的には沈砂池の中にある土というのは、要は対策土に触れた土ですから基本的にはセレンなり濃度が濃い土砂のみが残っていると。要は濃い状態で残ってる。

○委員（三澤公雄君） わかった。よけている対策土を更地に置いておいて、それが雨に流れて入ってきたんだということか。

○委員（大久保健一君） まず聞こう。

○新幹線・公共交通係長（岡島孝明君） 沈砂池内に入っている土を本来というか、除去する作業をしていたんですよね。要は浚渫じゃないですけど、除去する。なので、除去する前に大雨で。

○委員（三澤公雄君） だって雨の予報出てるのに。だから沈砂池ってところから運び出そうとしている最中だけれども、天気予報もよく見ないで仕事していたから、それを置いておいたから一緒に流れたって説明かい。

○新幹線・公共交通係長（岡島孝明君） 一緒に濁水処理設備に入ってしまったと。

○委員（三澤公雄君） 沈砂池に通らないで。沈砂池よりの下にその土砂を置いておいたってこと。

○新幹線・公共交通係長（岡島孝明君） 沈砂池内に既にある土砂が、まだ沈砂池内にあったんですよ。その状況で雨が降ったと。要は、取り除く途中だったと。その沈砂池内に溜まった土を取り除く作業をするときだったと。

○委員（三澤公雄君） 容量が近くいっぱいになってきたから取らないといけないって工程の中でやっていた作業で、予想外に大雨が降ったから、いつも天気のせいにするよな。

なんでそういうのを想定してなかったんだ。作業の工程をそういうふうにすればいいわけでしょ。

○新幹線・公共交通係長（岡島孝明君） おっしゃるとおりです。

過去にも雨の影響でとかって。

○委員（三澤公雄君） そんな理由ばかりだわ、聞いているの。

○新幹線・公共交通係長（岡島孝明君） 前々から天気予報を見て作業してほしいというのは、直接は言っているものの、実態としてそこまで結果として天気予報を見ていないのかなっていう作業実態が実際にはこのようなかたちであるのは、こちらからの要請不足でもあるのかなと思っています。

○委員（三澤公雄君） 濁水処理設備、沈砂池も含めた。それは機能しているって信じていいの。こんな天気のたびに不祥事起きちゃう。たびって言ったら申し訳ないけどね。

○新幹線・公共交通係長（岡島孝明君） 委員長、新幹線・公共交通係長。

○委員長（安藤辰行君） 新幹線・公共交通係長。

○新幹線・公共交通係長（岡島孝明君） 基本的には、この機能がしっかりと働いているというのは信じていいものと考えております。

○委員（三澤公雄君） セレン濃度の濃い審査した浚渫度は、どこにいつてるの。

○新幹線・公共交通係長（岡島孝明君） 委員長、新幹線・公共交通係長。

○委員長（安藤辰行君） 新幹線・公共交通係長。

○新幹線・公共交通係長（岡島孝明君） ごめんなさい。確認はしてないんですけども、おそらく産業廃棄物として処理されるものだと思っています。

というのも濁水処理を介して、そこでも濁りを取って、濁り具合の固めたものっていうのが出るんですよね。いわゆるケーキといってるんですが、その塊についても産業廃棄物として処理しているというのは説明を受けていますので、その沈砂池内の土についてもおそらくそれで処理しているのかなと思っています。はい、確認いたします。

○委員（三澤公雄君） その産業廃棄物はどこに行ってるの。

○新幹線・公共交通係長（岡島孝明君） その産業廃棄物は、最終的な行先については確認はごめんなさい、とれてないので、とれていません。そこは適切に。

○委員（三澤公雄君） 大丈夫か、まさか要対策土のところはまってねえべな。それで数字の異常が出たときにまた天気のをせいにしてよ。

○新幹線・公共交通係長（岡島孝明君） 産業廃棄物にしているのであれば、しっかり適切な場所に。

○委員（三澤公雄君） 町外の然るべき施設に運んでるってこと。ちょっと確認されてないなら確認して。信用が著しく失墜している中でさ。

○新幹線・公共交通係長（岡島孝明君） そこは確認させていただきます。

○委員（横田喜世志君） 八雲町内濃度によって置く場所いろいろあるからさ、下手すると濃度が低いかからそっちっていう可能性も、なきにしもあらずだから。

○議長（千葉 隆君） 三澤さんところでないのか。

○委員（三澤公雄君） うちは無対策土。頼むど、おい。

○議長（千葉 隆君） 三澤山だつてな。

○委員外議員（佐藤智子君） 委員長、佐藤。

○委員長（安藤辰行君） 佐藤さん。

○委員外議員（佐藤智子君） 今回のこの場所っていうのは、北斗市からも運ばれてきていますか。

○新幹線・公共交通係長（岡島孝明君） 委員長、新幹線・公共交通係長。

○委員長（安藤辰行君） 新幹線・公共交通係長。

○新幹線・公共交通係長（岡島孝明君） 黒岩Bに関しましては、北斗からの対策土は搬入されていないものと認識しております。

以前からご説明させていただいていたとおり、北斗市は黒岩Cで処理すると。そこに入りきれないものに関しては、今、上八雲の仮置き場があるので、そちらにも持って行つてるといふ説明は受けております。

○委員外議員（佐藤智子君） 委員長、佐藤。

○委員長（安藤辰行君） 佐藤さん。

○委員外議員（佐藤智子君） なぜ北斗市からっていうのを聞いたのかっていうと、北斗市ではいまだにセレンが基準値以上に出てるっていうのが随分と長い間そういう状態なので、ちょっと聞いてみました。

その黒岩Bには、北斗市の土はないっていうのにセレンが出てるっていうのはやっぱり調査は必要だし、もしかしたら今、三澤さんがいろいろ質問されていましたが、機構の方に来てもらって説明してもらったほうがいいんじゃないだろうかって私は思いますけど、総務経済常任委員会の相違がいらないうえに言えばそうはならないので、その辺は心得ているつもりですけども、そういうこともあってもいいのではないかなと思いますけど。委員会の中で話してもらえれば。

（何か言う声あり）

○委員（倉地清子君） 委員長、倉地。

○委員長（安藤辰行君） 倉地さん。

○委員（倉地清子君） まずこの報告を受けて、ちょっと経過を見て対処はしている報告いただいているし、今回町長の要請ということできちっとストップして、今後やる場合、●●

のときには協議をした結果、またそれを報告いただけると私は思っていて、なので雨水の件については天気予報をチェックしながらやっていただきたいということも含めて伝えてもらいつつ、来てもらうってことまでいなくても、見守っていくってかたちでいいのかなっていうふうに個人的には思います。

○委員長（安藤辰行君） どうですか。よろしいですか。

そっちの方向でいいと思いますけれども。ほかの委員の人。

○委員（大久保健一君） ほかの質問いいですか。

○委員長（安藤辰行君） 大久保さん。

○委員（大久保健一君） これを見ると、取水と水質結果報告。結果報告は町に対しての報告ってことですか。この日付を書いているのは。

○新幹線・公共交通係長（岡島孝明君） そうです。この経過の左側の日付に関しては、機構から町に受けた報告された日にちでございます。

○委員（大久保健一君） それぞれ3週間くらいかかっているんですね。それで採水からその成分がわかるまでの時間って、どれくらいのものなんだろう。

○新幹線・公共交通参事（戸田 淳君） 委員長、新幹線・公共交通参事。

○委員長（安藤辰行君） 新幹線・公共交通参事。

○新幹線・公共交通参事（戸田 淳君） その採水したあとに調査の機関にそれを送って、それを調査して結果が出るってことで、これまで4月からずっと記録期間をみますと、最短で16日。

だいたい20日前後、曜日の関係だとかお盆があったりだとか、あとは閉鎖期間にそこだけ検査してるわけじゃないと思いますので、ほかの検査もあってタイミングとかあると思いますが、一番早くて16日はかかっている。

機構でもわかった時点ですぐに第一報で、ベタ打ちでメールでどうだったっていうことは連絡してくれていますので、最低それくらいはかかるのかなって思っております。

○委員（大久保健一君） ほかの質問いいですか。

○委員長（安藤辰行君） 大久保君。

○委員（大久保健一君） そしたら正式な水質検査報告っていうのがこれくらいかかっているけれども、ちょっとやばいものが出てしまったというのは速報では連絡が来てるってことで認識していいですか。

○新幹線・公共交通参事（戸田 淳君） 委員長、新幹線・公共交通参事。

○委員長（安藤辰行君） 新幹線・公共交通参事。

○新幹線・公共交通参事（戸田 淳君） 速報ですぐにまた連絡が来たっていうのはこの日付で16日から20日、場合によっては20日以上かかっていますが。そのあとに1日、2日もしくは3日くらいしてから結果報告書の写しというか、確認できるものが送られてきております。

○委員（三澤公雄君） 委員長、三澤。

○委員長（安藤辰行君） 三澤さん。

○委員（三澤公雄君） じゃあ、その3週間ほどの間、数値がオーバーしたあと、そこは水の流れとか止めてるわけじゃないよね。その3週間、ましてやサンプルを取ったときに汚染

物質の先端かどうかともわからないわけでしょう。汚染されたものがどこまで移動するかということは、機構は掴んでいるんだよね。万が一の場合はいろんな除去とかもしないといけないわけだからさ。それはどうなの。

検査結果が八雲町に届いて、八雲町はその結果をもって、場合によっては搬入の即刻停止とかをするんだけど、水の流れ自体は停まっていないわけだ。じゃあ、その汚染物質はどこまで広がるかということは追跡調査しているんですか。

○新幹線・公共交通参事（戸田 淳君） 委員長、新幹線・公共交通参事。

○委員長（安藤辰行君） 新幹線・公共交通参事。

○新幹線・公共交通参事（戸田 淳君） 三澤委員がおっしゃるとおり、水についてはどうしても沢からくる水を処理すると必要なもので、流れ出ています。濃度の濃いセレンがどこまでいってるかってところの追跡までは、正直しているかわからない。

しかしながら、オレンジの濁水処理水のグラフがあると思うんですけども、そのほかに河川の水だったり見てはいるんですけども、これでいくとYA-K-901 っていうところ。これが山崎川になるんですけども、要は排水先より下側、下流になる時点で水質見ています。

それで、濃い青を見ると若干の上昇はあるんですけども、ここについては、基準値を下回っているというところで、排水先はちょっと濃いものが出ているんですけども、結果水で薄まっている状況というところで、大丈夫とは言えませんが、この河川に薄まってはいるという状況までは把握しています。

○委員（三澤公雄君） 環境基準は守っているってことだよな。

それでね、今質問していると思ったんだけど、サンプルでオーバーしてるよってわかった後に、次のサンプルというのは今回一週間ごとになったけれども、通常だったらオーバーしていても1か月後なのかい。オーバーした翌日もどうだったろうとか、そういう検査はしていないの。

○新幹線・公共交通係長（岡島孝明君） 委員長、新幹線・公共交通係長。

○委員長（安藤辰行君） 新幹線・公共交通係長。

○新幹線・公共交通係長（岡島孝明君） オーバーしたサンプルの次の日については、先ほど参事から申しているサンプルの検査結果が出るのに、それなりの時間が必要というところなので、これがどういったものかっていうのが全員わからない状況なので、その次の日をじゃあとってみようっていうのは今なっていない状況です。今、最多でも一週間の頻度空けちゃっているというところですね。

○委員（大久保建一君） ほかの質問いいですか。

○委員長（安藤辰行君） 大久保さん。

○委員（大久保建一君） 4番で、八雲町の対応としていろいろ書いていますよね。この正式な申し入れに、天候を見たらうえでの作業ってなぜ入れないんですか。

○新幹線・公共交通係長（岡島孝明君） 委員長、新幹線・公共交通係長。

○委員長（安藤辰行君） 新幹線・公共交通係長。

○新幹線・公共交通係長（岡島孝明君） ごめんなさい。今までの実態を鑑みれば入れるべきだったものと今認識しました。ただ、正直当たり前のことというところで、当たり前すぎて入れてなかったんですけど、実態をみたら入れるべきだったかなと思いました。

○委員（大久保健一君） 委員長、大久保。

○委員長（安藤辰行君） 大久保さん。

○委員（大久保健一君） 今からでも遅くないので、そういうことは正式に申し入れたほうがいいんじゃないですか。

○新幹線・公共交通参事（戸田 淳君） 委員長、新幹線・公共交通参事。

○委員長（安藤辰行君） 新幹線・公共交通参事。

○新幹線・公共交通参事（戸田 淳君） 確かに当たり前すぎて私たちも正直、なんでっていう思いが強いんですけども、改めて、当然これまでの経過からそういう対応をしているとは信じてはいたんですけども、改めて私のほうから八雲の事務所のほうにしっかりと対応するように天候見ながら作業をきちんと進めてくれということで伝えたいと思います。

○委員（大久保健一君） 委員長、大久保。

○委員長（安藤辰行君） 大久保君。

○委員（大久保健一君） でも多分それはさっき岡島さんが言ったように、多分現場レベルでは申し入れてたとは思うんだ。だから、今でもまた同じように現場レベルでおさめようとして申し入れするんでなくて、正式なかたちでやってくれてないじゃん。だから正式なかたちでっていうふうに申し入れたほうが、効果は出るんじゃないかなと思いますが、どうですか。だからその辺、協議して。

○新幹線・公共交通参事（戸田 淳君） 委員長、新幹線・公共交通参事。

○委員長（安藤辰行君） 新幹線・公共交通参事。

○新幹線・公共交通参事（戸田 淳君） 今の内容は内部でも協議しながら、書面で申し入れるかたちで対応したいと思います。

○委員（三澤公雄君） 委員長、三澤。

○委員長（安藤辰行君） 三澤さん。

○委員（三澤公雄君） （3）のじゃかごが、4箇所設置予定のうち3箇所設置済みって、じゃかごはどこに4箇所置く予定なの。

○新幹線・公共交通係長（岡島孝明君） 委員長、新幹線・公共交通係長。

○委員長（安藤辰行君） 新幹線・公共交通係長。

○新幹線・公共交通係長（岡島孝明君） ごめんなさい。図面がなくて申し訳ないんですけども、A3の資料の左上に沈砂池っていうところの拡大図があると思います。

それで、がくってなっている、長方形が二個あるような絵になっていると思うんですけど、この長方形一本に対して2箇所。ちょっとごめんなさい、場所まではわからないんですが、基本的に長方形が2本あるので、それぞれ2箇所のイメージです、設置場所としては。多分真ん中あたりに2か所つくのかなと。

○委員（三澤公雄君） これまでは沈砂池の中に重金属のこの吸着マットってなかったからつけるのか、濃いものに対応できなかったから増設するのか、どっちなの。

○新幹線・公共交通係長（岡島孝明君） 委員長、新幹線・公共交通係長。

○委員長（安藤辰行君） 新幹線・公共交通係長。

○新幹線・公共交通係長（岡島孝明君） 基本的には沈砂池内のじゃかごってというのは設置していないので、今回、4月から、要は影響があったというところで対策を強くするという  
ことで設置されるものです。

○委員外議員（佐藤智子君） 委員長、佐藤。

○委員長（安藤辰行君） 佐藤さん。

○委員（佐藤智子君） この黒岩Bにブルーシートが敷かれているっていうんですけども、  
盛土したものを覆っているのか、それとも下に敷いているのかっていうのは情報を得てい  
ますか。

○新幹線・公共交通係長（岡島孝明君） 委員長、新幹線・公共交通係長。

○委員長（安藤辰行君） 新幹線・公共交通係長。

○新幹線・公共交通係長（岡島孝明君） （3）の鉄道・運輸機構の対応というところで、  
法面に今養生シートを施工しています。

これの理由といたしましては、黒岩B地区の対策土の対策講がいわゆる浸透抑制という  
かたちで、最終的に対策土の上に水が染み込みにくいような覆土をするんですけども、こ  
の盛土施工中っていうのがいわゆる蓋って言うんですけど、蓋がすぐにできないもので  
すから、今回薄いとかでその対策土にあたった水が沈砂池に流れたと。

それで結果的にセレン濃度が上昇したという仕組みなんですけども、このシートをする  
ことで、まだ蓋ができていない対策土にシートをするわけですから、雨が降っても対策土に  
触れにくくするような対策をしてこのセレン濃度を下げようというものです。

○委員外議員（佐藤智子君） 委員長、佐藤。

○委員長（安藤辰行君） 佐藤さん。

○委員外議員（佐藤智子君） そうすると下に敷いてるんじゃないくて、土の上に被せてるっ  
ていうことなんですね。

○新幹線・公共交通係長（岡島孝明君） おっしゃるとおりです。

○委員外議員（佐藤智子君） わかりました。

○委員長（安藤辰行君） ほかにありませんか。

○新幹線・公共交通参事（戸田 淳君） 委員長、新幹線・公共交通参事。

○委員長（安藤辰行君） 新幹線・公共交通参事。

○新幹線・公共交通参事（戸田 淳君） 今回またこのようなことになりまして、報告でも  
ありましたが、町長から北海道新幹線建設局の局長に要請した際に、局長からも今この対策  
を早期に完成させるっていうのがとにかく早くやるそれが一番でそれしかないものでは  
から、局長からも早急に対応していきたいということでコメントをいただいておりますので、  
今日のお話もありましたが今後も町からも機構のほうに、早急に進めていただくように要  
請してまいりたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

○委員長（安藤辰行君） これで終わりたいと思います。

#### 【政策推進課職員退室】

○委員（牧野 仁君） だから、シート山積みになってるんだ。何に使うのかなと思って。

○委員（三澤公雄君） 積み終わって、土砂かけるまでにはある程度できないと土砂かけられないから。だから、シートかけて。

○委員長（安藤辰行君） シートかけないと混ざっちゃう。

○委員（三澤公雄君） それまではさ、野ざらしだったからそこから雨にあたって、それで基準値上がったんですよ、なんて平気で理由言ってたじゃん。

それでこっちから言って、シートかけるようになったんだよね。

○委員長（安藤辰行君） 言われればやる、言われればやる。

○委員（三澤公雄君） オーバーしない限り、ギリギリの仕事をしてるんだ。

○委員長（安藤辰行君） 基準値が上回らないうちは、やらないしな。

（何か言う声あり）

○委員（関口正博君） 要は、環境基準値が0.01でしょ。でも、これが法律違反になるのは0.1とか0.2とかその値でしょ。

○委員（三澤公雄君） だから、余裕があるっていう思いがあるからさ。

○委員（関口正博君） 過剰に反応しちゃえば、これまたなかなか難しいところあるんだけど、っていうとこだよね。

○委員長（安藤辰行君） 数値的にはね、余裕あるから施工のほうだよ。

○委員（三澤公雄君） ただ、過敏になる人にも理由があって、濃度の基準であって、生物はそれを蓄積させてしまうから、濃度が守られてるっていても排出すること自体にもっと神経使ってよっていうのが気にしてるでしょ。

○委員（関口正博君） 沈砂池の掃除も定期的にやってるものだから、数値が上がったから、前やったことでしょ。

○委員長（安藤辰行君） そういったって、疑えばきりねえし。

○委員（大久保建一君） 定期的にやってないと溜まってく一方で、あふれるんでないの。

○委員（関口正博君） まあ、そういうことだ。ただ、濃度が下がってるうちは別にやる必要ないっていうのは、やる必要ねえのかもしれない。法的な縛り。

○委員長（安藤辰行君） 業者のほうに言わせればね。やる必要がねえ、濃度が上がってねえんだもん。

○委員（大久保建一君） いや、でも今回さ、濃度が上がったから、掃除をやったんでしょ。

○委員（関口正博君） （聞き取り不能）。

○委員（大久保建一君） ちがうべや、掃除をしたときに雨降ったから濃度が上がっちゃったんじゃないの。

○委員（関口正博君） その沈砂池の濃度が上がったから、水を抜いて沈砂池の土砂を上げて、退席したところに雨が降っちゃって。

○委員長（安藤辰行君） 沈砂池のね。

○委員（牧野 仁君） 施工の問題が、雨水を●●と。

## ◎ 報告事項についての協議

○委員長（安藤辰行君） それでは、二番目の報告事項についての協議について、ということですが、町のほうも予定をしてるんで、四番の調整事項に付け加えて、先ほどの話じゃないんですけども、（聞き取り不能）。

○委員（三澤公雄君） 今更ながらだけれども、あっちでもちゃんと精査してやるっていうので、文章で出すっていうので、もうちょっと様子を見てですね。

それでいいですか。

（「はい」という声あり）

○委員長（安藤辰行君） じゃあ、これで報告事項については終わりたいと思います。

### ◎ 協議事項

○委員長（安藤辰行君） それでは三番目の協議事項ということで、常任委員会の視察調査について事務局から。

○議会事務局次長（成田真介君） 委員長、次長。

○委員長（安藤辰行君） 次長。

○議会事務局次長（成田真介君） 総務・文厚の視察調査ですが、参加者もだいたい決まり、行程のほうもほぼ確定となっております。視察先では、いわき市、亘理町、両方ですが、福祉担当と防災担当が対応となる予定ですが、視察先に対してあらかじめ質問事項を送ることに際しまして、皆様からの質問・意見などを参考に作成したいと考えております。

資料にあります、質問事項記入用紙に質問事項等を書いていただき、事務局に提出、またはファックスやメールで事務局に送ってもらえればと思います。だいたい来週の文厚までに提出していただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。

それと、視察前に、避難所運営ゲームのD○はぐについてですけれども、危機対策課に説明をいただきながら、皆さんにゲームをやってもらってはどうかと文厚の赤井委員長から提案がありまして、日程のほうは危機対策課の都合もありますので、9月下旬から10月上旬ということで、正副委員長と調整したいと考えておりますが、そのようなかたちで進めてよろしいか、ご協議のほどよろしくお願ひいたします。

○委員長（安藤辰行君） ゲームをやる、やらないってということですか。

○議会事務局次長（成田真介君） 一応やる方向で検討したいと。日程のほうは、正副委員長と調整ということでよろしいかってことで。

○委員長（安藤辰行君） やるってことで進んでいいの。ただ、日程的なことで。これゲームはやるってことですが、日程のことで今月の末か来月の初め。いつがよろしいですか、ということですか。

○議会事務局次長（成田真介君） どうしても危機対策課の都合もありますので、今見られないかなと思いますので、その期間の中で日程を調整したいと思います。

○委員長（安藤辰行君） ざっくりばらんにいつくらいがいいですよっていうことをこっちから言わないと駄目。いつがよろしいですか。来月入ってからでよろしいですか。

（何か言う声あり）

○議会事務局次長（成田真介君） 10月の下旬くらいで調整したいと思います。

○委員長（安藤辰行君） よろしいですか。

（「はい」という声あり）

○委員（三澤公雄君） 視察のことでちょっと。

○委員長（安藤辰行君） はい。

○委員（三澤公雄君） 今回2泊3日の予定が1泊になって、内容的には総務のジャンルの内容ってことだったんだけど、今回ね、熊祭りで来た名古屋の徳川美術館の人たちから話を聞いたり、尾張徳川の話を知ったときに、あまりにも自分の知識が薄いなど。尾張の。そういったいわゆる八雲の文化的バックボーンについて僕は薄いと思った。見に行ったこともないし。徳川美術館だとかも含めて。

今回せっかく予算があるのに半分の日程になったんだから、1泊2日の部分でネタ的には文厚のネタなんだけれども、僕ら八雲町議会議員として、尾張徳川の小牧市とは交流があるけれども、もっと尾張徳川を深く知るという意味での何か視察を任期後半だけでも、今回せっかく予算があるのにどうだろうか、急遽、行きづらいところじゃないんだよ。交通の便はいいわけだし、どんなもんだかなと思ってね。それは、ここだけでは決められないから全協でも提案しようと思うけれども、せっかくこのメンツが集まっているからさ。

○委員（大久保建一君） 名古屋。そしたら往復飛行機だから結構だから、結構自腹出るね。

○委員（倉地清子君） 飛行機だけ。

○委員（大久保建一君） 名古屋行くって話じゃないの。

○委員（三澤公雄君） そうだね。

○委員（大久保建一君） 飛行機でしょ。新幹線で行くって話。

○委員（関口正博君） 乗り換えしないとない。

○委員（三澤公雄君） 飛行機のほうが安いんじゃないの。

○委員（大久保建一君） だって千歳からなら乗り換え必要ない。

○委員（関口正博君） この日程の中じゃなくて。

○委員（大久保建一君） この日程とは別日程。

○委員（三澤公雄君） この時期に。

○委員（大久保建一君） 結構自腹出るけど。

○委員長（安藤辰行君） 別に1泊2日で。

○委員（三澤公雄君） 別日程で、どうだろうかという。

○委員（倉地清子君） はい。

○委員長（安藤辰行君） 倉地さん。

○委員（倉地清子君） 私自身も熊祭りに行ったときに徳川さんの話を聞かせてもらって、それ以外にもいっぱい聞いたことはあるんですよ、おおやさんのご厚意で。でも、いつも新しいことを聞かせてもらっていて、結局は何も知らないというのがあったので、私もこの視察研修というのが文厚と総務と二つで2泊3日っていうスケジュールがあるのを、一つにまとめて、しかも1泊2日だから、できればこの視察というのは議員として行かせてもらったら、知識が深まってより良いのかなというふうには感じておりましたので、ちょうど良い意見をいただいたと思いました。私もそう思っています。

○委員長（安藤辰行君） 年内、今年度っていうことか。

○委員（三澤公雄君） そうだね。

○議会事務局次長（成田真介君） 総務・文厚の視察の予算的には令和6年度だから、どれくらい予算的に今回の視察が終わったあとで、予算が残るのかまだわからないです。

○委員長（安藤辰行君） 予算が足りなかったらそれぞれ自腹で行けばいいから、予算的なことはいいと思うんだよね。

○委員（大久保健一君） 足りなければ、自腹すればいいから。

○議長（千葉 隆君） 委員長。

○委員長（安藤辰行君） はい。

○議長（千葉 隆君） 実は、中国のホタテの関係で、名古屋市市議会議員が去年来てくれて、個人でね。それで、かなり企業とか学校関係含めて、ホタテの関係で活躍したってわけではないけれども紹介してもらって、なんか今年も一回秋ころに来るって言ってたんですよ。そういった部分も含めて交流するっていうか、お礼というか、そういう部分もあったり、あるいは三澤議員さんが言うように、徳川美術館を見るというのもその中に入れてもらえばいいと思いますし、逆に小牧も含めて名古屋といたら隣続きなので、以前は小牧の議員さんたちと合併前ね。交流も何回かはやっていた時期も合併前にあるんだよね。

だけど、なんとなく合併後、途絶えている部分もあるし、小牧市の関係では町も平成夏まつりとかにも実行委員会とかでは行っていたし、JCも小牧市の市長や議員さんとか県議もいるので、そういった人たちとも民間交流してるから、そういった関係も含めて包括的にどういうふうなかたちで、行くとなったら美術館だけではなくて、包括的に2泊3日だったらどっちも表敬訪問くらいはできると思うし、その辺、単に一箇所見るってだけではないことも目的としては作ることができるんじゃないかと思うんですよ。

それでこの間、町長とも話をしていたら、町長も結局小牧と名古屋の部分を含めて、トークイベントにも名古屋市長が来てくれてるんですね。そして、今そのとき私も同席したんですけども、なんか100何十年前は、人がこっちに來たけれども人以外のものを名古屋から出したっていうことを市長が言ってるんですよ。

だから、そういったことも含めて町長だけではなくて、議会のほうもそういった部分の要請というかそういうこともできるというか、それで古くはやっぱり牧野町政時代に小牧のほうについては小牧荘を作ってきて、民間レベルでは今年も小牧の部分で10人くらい行くのかわからないけれども、小牧には2年に1回行ってるので、そういった部分からすると議会だけが町長も行ってるし、民間レベルでも行ってるんだけれども。

議会のほうだけは途絶えている状況も踏まえて、考えることも必要なかなって思うんですよ。とにかく名古屋のほうは大きいから、やっぱりホタテの部分はね、ほとんど名古屋、そして愛知、それで今回助けてもらったことは事実というか大きかったんで、また今ホタテの部分も今年稚貝の部分もいろいろあるので、何が起きるかわからないときに、やっぱり100万都市とか交流するとかお願いするとかいう部分は、いろんな角度から交流していたほうが名古屋から見たらあまりメリットがないけども、八雲町から見たらメリットはあると思うんだよね。

それを含めて、文厚のほうでそっちは行くのかとか、そういった部分を調整かけて、大久保議員さんが言うようにある程度、私費の部分もあるから、その辺やって、合同っていう部分も含めて日程の中で行けない人もいるだろうし。

- 委員長（安藤辰行君） とりあえず案を作ってもらおう、進めるっていうことで。
- 議会事務局次長（成田真介君） 委員長、次長。
- 委員長（安藤辰行君） はい。
- 議会事務局次長（成田真介君） 予算的な部分でいくと、来年度、議運と広報の視察があって、通常、議運と広報ではあまり視察に行っていない部分もあるので、その部分もあてることも可能かと考えていますので、今年度、来年度も行く日程としては考えられるのかなと思います。
- 議長（千葉 隆君） 今は今年度の話をしてる。
- 委員長（安藤辰行君） 行くのは今年度。
- 委員（大久保健一君） 来年度は選挙の年でしょ。
- 委員長（安藤辰行君） 行くなら年度内だね。そういう方向で調整してもらって、次長、案を出してください。
- 議会事務局次長（成田真介君） 文厚のほうでも取り上げてもらって協議してもらおう。
- 委員長（安藤辰行君） 文厚の委員長さんいるから、聞いてんのか。  
そういうことでよろしいですか。

（「はい」という声あり）

### ◎ その他

- 委員長（安藤辰行君） その他で事務局から。
- 議会事務局次長（成田真介君） 次回の総務常任委員会ですが、定例ですと10月10日の木曜日ですが、その日は渡島檜山の議員研修ですので、その翌日の11日の金曜日10時から予定しておりますので、よろしく願いいたします。
- 委員（大久保健一君） この亘理市に行ったときに、亘理市のスケートボード場見たいな。
- 議会事務局次長（成田真介君） 多分、時間的に大丈夫だと思います。
- 委員（三澤公雄君） 公営の。
- 委員（大久保健一君） 公営だと思う。
- 委員（三澤公雄君） 見たい見たい。
- 委員（関口正博君） ちょっとよろしいですか。
- 委員長（安藤辰行君） はい。
- 委員（関口正博君） すみません、最中に言わなかったんですけども、決算の中でも佐藤議員がホタテの状況についてちょっと質問されていたと思うし、今、議長のほうからもホタテって言葉が出たので、この昨今の稚貝の状況があまりにもひどいので、これまでもそういうことってあったんです。数年に1回は駄目な年ってあって。  
ただそのときは、ケタを沈めたら半分くらいができたって言うんだけど、今全体的に水温が高いものだからどうにもならない状態になっているって可能性はちょっと高いのかなって。これは八雲、落部、噴火湾全部。  
それで、ホタテの船に関しては北海道全部っていうのがこれから先ちょっと状況として見えてくると思うんだけど、水産課にちゃんと調べさせて報告受けないと漁業者の税

取って結構大きいですから、やっぱり八雲管内すべてに関わることで将来にかかわる事例になってくる可能性もあるのかなって最近の状況を見てね、思うんですよね。

だから状況把握だけは文厚の中でも佐藤さんとのやり取りの中であつたけれども、ちゃんと議会でも知っておいたほうが、相当危機的な状況な僕は気がします。今まで落部に住んでいて、こんなことはない。悪いときはあつたけれども、必ず何年か経ったらまた復活してって繰り返したんです。今回いつもと違うのはやっぱり全道どこも駄目で、さらにはどうしても技術にも今の技術の中では活かすことができない状況に、当然水質の環境、温暖化の影響とかもあるんだけど。

だからといって、何かの対策ができるかといったらどうかかわからないけれども、いずれにしても状況把握だけはその都度、その都度しっかりしていったほうがいいのかなって。総務として思いますけれども。

○委員（三澤公雄君） それであれば水産課から上がるってことも大事。現場を聞きに行くっていう。

○議長（千葉 隆君） この間、大漁祈願祭のときに、両組合長にはたとえば今の状況と要は2年後になるので、出荷するのが。それでそうすると来年ね、逆に言ったら耳吊りやらないよって人が出てくるかもしれない。まずね。

だから、来年度になってこういう要請を受けるとかいう状況が、そのときになってどうしてほしいと言われたって、来年の耳吊りをやめようと思っている人たちは遅いんじゃないのっていう話はしてるのさ。ということは、要は今の状況をきちんと考えたら、早めはどういう対策をしなきゃならないかと。

それと、両漁協足並みそろえて町のほうに要請することを来年の前に見えるかたちにしてやらないと、来年の耳吊りのときにはもうやめてしまうってなっちゃうから。だから、ある程度早いうちに保証できるよとかさ、そういう部分作ってやらないと、離脱する漁家が出てしまう。若干出るのしょうがないかもわからないけれども、そういう部分を早めに対策打たないと駄目だから、早めに両漁協での具体的な要望を作ってくださいってというのは申し入れていて、そしてそのあと一週間くらい前に課長のほうからそういった部分、町からも話をしてるって言ってたから、ある程度状況まとまったら報告したいって話してる。黙っていても。

○委員長（安藤辰行君） どっちにしろ、組合のほうから要望は来る。

○委員（関口正博君） 今まだ稚貝をかき集めてるんだわ。今青森から持ってくる、稚内から持ってくるって、これ八雲もやってるし落部もやってるんだけれども。海に入れてすぐもう死んでるんだ。やっぱり海が合わないっていうのもあるし。だから二進も三進もいかないんだけれども。そういうので組合でも方針的なものは、それぞれ漁師動いてるからまとめれないってところもあるよね。

○委員長（安藤辰行君） まとめれないって言うよりも、実際に10人いて10人みんな買いに行ってるわけではないから組合も動きがとれない。バラバラだから。みんなが動いたら組合も町にお願い出しやすいんだけど、全員が全員じゃないからそこで不公正さが出る。

だから、飼わない人も買った人も同じように補助金出たら分けたい話であつてさ。その辺がしっかりと理事で話決まってるみたい。

○委員（関口正博君） これもだから地元でそれだけ獲れた人もいるの。ただ、今ここにきて地元の人も死んできてるの。だから相当慌ててるみたい。それがここ何日かの状況。

○議長（千葉 隆君） ただこの間の、昔でいうと台風の着脱から含めて、ホッケが二段階になってるわけだから、ほとんどきちんと保証するってやつに前はなかったんだわ。

それで、町も含めて要請して政府の税金を投入して作ってもらったの。ただ、そのときはそういう海洋だとか天災だとか含めての自然の部分で農家の部分はそういう共済制度が充実してるから、こっちがないから支援するっていつて。

それで今は一定程度あるんだけど、ただそこに保険を払ってる人と、保険を払ってない人がいるわけだ。だから、補助をやるときに、結局そこもどうなのかっていう議論も本当はしなきゃならない部分もあるんだけどね。

ただ、そうは言えないそれぞれの個々の部分でいうと、負債の部分も違うし、規模も違うわけだから、ただ町の立場としては漁業振興的には、漁家の数を減らさないというのは大前提でやっていかないとならないから、だからそういう部分である程度調整したかたちとか意見かたちをもってきてもらわないと、個々に出せないから早めに整理してくださいってことを今要請している状況です。

○委員（関口正博君） だから、もう事業になってるから、一軒なんぼじゃなくて、だから抜本的にまだ今から対策練つてもしょうがないんだわ。駄目なところは駄目で助けようがないんだけど、金額が大きいんだもん、だって。

だって、ホタテがなくなったら漁業自体が魚も獲れなくなってきたるしね。だからたとえば、相当設備投資なんかも相当かかる今の漁師って。外人も常に雇用して、いろんな角度からお金ばかりではなくて、何か支援できる体制が。コストを減らしていくしかないから。もうそれしかなくなってきたと思うので、そういうのを本当は組合から言うように要望上げてもらえたら一番いいんだけど、いかんせんまとまらないから、八雲も落部も。

その漁師によっても要望なんていうのは違うから。でも相当よろしくないなってここ最近。5年ごとに良い悪いって必ずあるから、黒潮の関係で、暖流・寒流の関係で必ずあるから。それはもうデータの的にはっきりしてるんだけど、だからその対策を今までしてきてもどこもやっても水がぬるいから。海水温がスロー単位で上がってるみたいだから稚貝はもう。

○議長（千葉 隆君） だって、21世紀の中で日本全国の気温が4℃上がるって言ってるんだから、そこはもう4度上がるってことはすごい変化で海面のほうが上昇率多いと思う。

○委員（大久保建一君） 海水温だったら4℃で済まないよね。

○議長（千葉 隆君） だからそういうことからすると、本当に生態系変わるのが当たり前だし。

○委員（関口正博君） この間カツオ売りに来てたよ。イカ売り。

○委員（大久保建一君） 八雲はもうホタテできなくなるんじゃない。

○委員（関口正博君） 可能性はあると思う。大げさじゃなくて可能性はある。

○委員（三澤公雄君） 冷たい海の貝は駄目だべ。

○議長（千葉 隆君） でも、今の段階である程度半分とか減らすことはできないわけだから、ある程度残していかないと違う魚種で勝負しようと思っても、本体いなくなったらさ、どうにもならないから。

○委員（関口正博君） もう獲る漁業なんていうのは無理で、やっぱりある程度養殖、偏ったかたちで考えていかなかったら。どこの海見ても魚は獲れないからね。

○委員外議員（斎藤 實君） 今、飼育してる大きい成長する貝、それは影響ないんですか。

○委員（関口正博君） ないわけではない。今はまだ吊るしたばかりだから、これから見ていくだろうけれども、それは死んでは来てるけどそれまで深刻なものではないということは聞いてます。ただ稚貝が。

○議長（千葉 隆君） 1年後はいいけれども、2年後は駄目だっていうこと。2年貝だから。だから、来年本当に稚貝、耳吊りやる貝がない。

○委員（関口正博君） 長万部も噴火湾全部。北海道沿岸全部。稚内の先だけがちょっと稚貝が獲れてる。

（何か言う声あり）

○議長（千葉 隆君） 元々は青森ほうから持ってきたって、いいものはねえっていうから。

○委員（関口正博君） ただ不思議と青森は一角でちょっと稚貝が獲れたらしく、それは運んでるんだけど。

○委員（倉地清子君） でも持ってきて死んじゃうなら、ホタテ自体は生きれないですもんね。

○委員（関口正博君） 噴火湾自体が生きれない環境になったのか。今年に限ってはね。それはちょっとわからない。ただ明らかに水温が今までと違う。去年からそうなんだけれども。

○議長（千葉 隆君） そういう認識はみんなある程度聞いてると思うから。一定程度、漁組のほうからある程度まとめる部分出してもらうのも早くしてほしいって要望は出してる。逆にね、こっちからは。

だから漁業者の人からも言われたらさ、逆に言ったら早く漁協のほうからまとめてくたさいっていうことが。個々に出すことできないからさ。だって一部、個々だけ駄目だって言うならわかるけれども、全面的に物がないと最初から。種ねえばどうもなんねえ。

（何か言う声あり）

○議長（千葉 隆君） 人間だって、薬打てば一時的に元気になるかもわからないけど。どこも悪くても一時的に元気になる場合もあるんだ。

○委員（横田喜世志君） （聞き取り不能）一時しのぎしようと。かけれる人とかけれないとがいるから。かける人は人として置いとくんではなくて、漁協としてみんな。

○議長（千葉 隆君） でもかけた人もさ、結局、利益があるからかけれるんだけど。

○委員（横田喜世志君） だからさ、全体を保護するって話なら、それをみんなにかけさせて、今かけちゃった人は戻すっていうか、それだったら均等にみんなに保険がかけれるってことにならない。

○議長（千葉 隆君） でも、それはそうなんだけれども。かけてる人はさ、もらったら来年高い保険になるから。全体的に。そして、そもそも今年もらった人が来年かけるかといったら、そもそもかけれないだもん。収入額少ないから。

○委員（関口正博君） おそらく共済も1年は対応するだろうけれども、2年、3年連続で何て対応できる額ではないと思う。

○委員（牧野 仁君） 無理だと思う。保証はできないと思う。

○委員長（安藤辰行君） 2年、3年で続いたら、アウト。

○議長（千葉 隆君） そういうのは町でなくて、また国に要請して掛け金を税金でやってくれっていうのは別口で道漁連も含めて全体でやっていくと思うんだ。

○委員（関口正博君） おそらく国も何かしらの対策はもちろんとっていきような雰囲気を感じにはなってるよね。そのくらいひどい。

加工屋も全部ホタテにシフトしてきてるから、元々のホタテ屋ばかりではなくて、元々魚してきてたところもホタテホタテってそれしかもうないからね。その頼みのホタテがなくなったら水産業全体が。

○議長（千葉 隆君） だいたいあれだけ八雲でもタコ獲れてたのに全然獲れないんだから。

ぼっちだって、全然見てねっけ。3年くらいまでタコのぼっちだって、黙っても要らなくなっている。今は全然。

○委員（関口正博君） 赤潮のときよりもひどい状況だって、タコも。

○委員（牧野 仁君） それでズワイガニが大量発生。カニを食べるから。

○委員（大久保健一君） カニのせいじゃなくて、タコがいなくなったからカニが増えているでしょ。

○委員（関口正博君） 赤潮でいなくなって、黒潮でさらに上に行っちゃった。だから、もうオホーツクのところでしかタコ獲れないって。

○委員（大久保健一君） 困ったタコだな。

○委員（倉地清子君） 今カツオとイワシが獲れてるんですか。

○委員（関口正博君） この間サケの定置見てきたけれども、あれイワシなのかサバなのか知らないけれども。

○委員（大久保健一君） イワシとサバはだいぶ違うべや。

（何か言う声あり）

○議長（千葉 隆君） だって、噴火湾だけじゃないからね。戸井のほうだって、すげえ大ダコ獲れてたんだから。こんな太いやつき。あれだってなんにもいないって。津軽海峡のほうも。もう全然。だから、もう大きな海域でもどーんとシフトしてきてるから、流れが変わってきてる。

○委員（大久保健一君） 昔、つつじ祭りにも出してたよな。タコとかな。

○委員（三澤公雄君） 水ダコの生息区域もホタテと同じで海水温低いところが水ダコの生息域だから、結局そういう意味では生息しづらいからというものもあるのかもしれないですし。

○議長（千葉 隆君） 流氷流れてくるところじゃないともう駄目じゃないかって言ってるんだよね。だから稚内とか釧路の、オホーツクのあっち側しか駄目だめ。だから日本海駄目、太平洋側は駄目、津軽海峡も駄目っていう感じ。

○委員（三澤公雄君） でもホタテの養殖って全国にあるんだけど、微妙に種類が違うのさ。ホタテ貝ってイタヤガイって種類で、それで今ちょっと改めて調べたら島根県では天然のイタヤガイから八雲みたいにラーバをとって養殖に成功しているんです。

それで、島根県っていったら八雲よりもずっと日本海の暖流の先だから、温域には暖かい海。だから、そういったまだ耳吊りには挑戦してないけれども、ホタテだって耳吊りって

うのはこちらで開発した技術でしょ。だからホタテ貝で南の海域に生息して養殖可能性のあるものを先行して取り入れるってことをして、ほかの産地よりも生き残り先に図るってことは漁協の人たちに理解してもらって。

○議長（千葉 隆君） ●●もそういう試験所があるんだけどな、八雲町もそういうのやればいいんだけどな。だからオホーツクだって鮭と同じように、これからオホーツクだけいいなと思ってるけれども、あっちのアラスカのほうから段々魚種が押し寄せてきて、こっちも姿が変わってくるというか外来種のほうが強いから。なんでも。

それがどんどんこっちに来てるんだわ。こちらは駄目だっけ。だからそこだって、将来的にどうなるかわからないんだよ。オホーツクなんて。

○委員（関口正博君） 今年ロシアでも鱒が不漁で、鱒といえばますこ。八雲のふるさと納税もそうなんだけれども、ロシアのほうさすがに獲れなくなってきているような、そんなような状況にもなって来てるんで。だからますこ自体も値段が上がってくるんじゃないかって。

○議長（千葉 隆君） ふるさと納税期待できないもんね。いくら。

○委員（関口正博君） ロシアだから獲れてるもの獲れてないっていう情報出してる可能性もある。そういう可能性はあると思う。

○委員（牧野 仁君） 価格を吊り上げるのに。

○委員（三澤公雄君） 平気でフェイクニュース作るから。

本当にホタテがない頃の内浦湾の漁師ってのは、出稼ぎが当たり前だったんでしょ。

○委員（関口正博君） それでも、ホタテが安くてもやってこられたのは、季節ごとにいろんな魚が獲れたからなんですよ。夏は昆布獲り、秋はスケソ、刺し網にするカレイ、季節ごとに魚が獲れてた。今はもうそんな魚がいなくなったらしのげない。

○議長（千葉 隆君） 北大の先生の言うとおりにやるのもいいけれどもさ、どう考えたってさ、ダルスでき、これからいってもなんぼ獲れるかって、商売になるかってよりも、やっぱりこれから本当に可能性っていうか商売で可能性のあるものを少し入れてくれたほうがいいけれども、なんとなくこのままいったらあの品目の研究をしてたって、そんなにさ、一人か二人の漁業者は助かるかもしれないけれども、どうなんだべなって。

もう少し変えないと駄目だと思う。研究の題目というか題材というかさ。三澤さんじゃないけどそういうのも入れてもらうとかなんかしないと。

○委員（関口正博君） 北海道は天然が獲れていたから、そういう研究は他所に比べて相当遅れてる。だからこういう事態になったら全く機能しなくなる。

○議長（千葉 隆君） ホタテ駄目になったら違う代替えの部分とかを本当に考えないとなくなるときに、ダルスの研究してたってどうにもならない。

○委員（関口正博君） ホタテとかは教授によっても好き嫌いがはっきりしてるから、大衆的なものには全く興味がなくて珍しいもの。だから、なんのためにもならないから。

○議長（千葉 隆君） それは北大の言い分もわかるけれども、一つか二つくらいさ、地域の漁業に直結するようなやつさ。それでなかったら、北大と関係悪くなくてもいいかなって。

○委員（大久保建一君） 何のために金出してるかわからない。

○委員（関口正博君） だから、水産試験研究だってさ、勝手にイトウとかやりだしたけれども、あんなもの一番価値一つもないから。まあ全てのものがそうだけど。ガヤだって一番価値なんてなんもないからね、あんなもの。

○議長（千葉 隆君） あれリストを見ててもさ、商業化できるっていうの。

○委員（関口正博君） ソイくらいだろうね。

○委員（大久保健一君） ソイと何だかのハイブリッド。

○議長（千葉 隆君） だから、少しちょっと。

○委員外議員（斎藤 實君） だけど大学って研究のためにやっちゃうから、今皆さん話したとおりにんだわ。

○委員（牧野 仁君） もうちょっとしっかりやってほしいよな。

○委員（関口正博君） わからない。将来、魚獲れなくなってそれがまた注目浴びるときが数十年後にくるかもしれない。

○委員（大久保健一君） ダルス。

○委員（倉地清子君） ダルスあまりうまくいってないって言ってませんでしたっけ。

○議長（千葉 隆君） だって食べる人がいないんだからさ。そんなに。やっぱり消費者にさ、食べてもらえるものを研究してもらわないと、なかなか直結できない。

○委員（関口正博君） ホッケすら養殖するっていう時代になってきてるからね。

○議長（千葉 隆君） だから、研究先変えてもいいっけ。

○委員（大久保健一君） ホッケすらって、ホッケ美味いべや。

○委員（関口正博君） ホッケってそこら辺で獲れてたんだもん。

○議長（千葉 隆君） 北海道のどこだっけ、ホッケやりだしたよね。白老かい。

学校の校舎を改修してやりだしてるんだから、そういうやつのほうがさ、毎年さ、1千万円以上かけてるんだから、そこに2千万円かけてもいいくらいだよな。今の状況だよ。

なんか今の種目ならちょっと心持たないっていうか、10年で1億だよ。一生懸命になってもなんにも論文だけできたっけ。

○委員（三澤公雄君） 論文閲覧数でいばられたって、こっちにはなんも面白くもなんともないよ。

○委員（牧野 仁君） やっぱり磯焼けが致命傷でないか。温暖化もあるけども。やっぱり藻場を再生しないと海は全滅。

○委員（関口正博君） そっからやっぱり始まるんだべね。

○委員（牧野 仁君） やっぱりブルーカーボンじゃないけれども、国もちょっと遅いんだもん、対応。もう40年くらい前からの話まだやってない。

○委員（関口正博君） 実際に熊石なんかがさ、それが騒がれてからやって、昔はいろんな魚をね、熊石で獲れてたけれども。磯焼け始まってから魚が獲れなくなって。それで、今の状況になっていってるから。

○議長（千葉 隆君） 漁業も硬岩土木でね。硬岩できて喜んでたから。

○委員（斎藤 實君） 将来は考案を作ってもできねえよって言われてる中で、硬岩作ってるんだから。

○議長（千葉 隆君） 漁場作らないで、硬岩作ってるんだから。もう失敗なのさ。

- 委員（牧野 仁君） 山で言えば、海の中なら裸山だもん。俺に言わせれば。
- 議長（千葉 隆君） 硬岩あって、●●ねえんだもん。
- 委員（三澤公雄君） 針葉樹はやっぱり豊かになるまでね。豊かな山がないと、豊かな実はないわけだ。
- 議長（千葉 隆君） どうすんのかな。でも、なんとなくもうちょっと違う方向性のものも追及してもらわないと。
- 委員（牧野 仁君） 俺も山の関係で仕事してる分、繋がってるからさ。
- 委員（斎藤 實君） 横山さんをどれだけ利用できるかだな。
- 委員（牧野 仁君） 川上も川下でねえけど繋がってるから、山だけの問題でないもんな。海だから。海自体がもう、痩せちゃってる。
- 委員（倉地清子君） どっか、コンブ。
- 委員（関口正博君） 天然昆布も何もなくなってね。南茅部もほとんどが水揚げ養殖昆布だからね。
- 委員（大久保健一君） 終わりましょう。
- 委員（三澤公雄君） いつから終わってた。締めてないの。
- 委員長（安藤辰行君） 以上で終わります。

[閉会 午前11時22分]